茨城高専の教員が携わる業務内容の概略

高専は，その教育目標や学生の年齢層（本科：16～20 歳，専攻科：21～22 歳）の幅広さなどから，大学や高等学校とは本質的に異なる点があります．高専の教員は，教育，研究，学生の生活指導などの全てに対して情熱を持って積極的に努力する姿勢が求められます．ここでは，茨城高専教員の業務について，認識をさらに深めていただくために，その主なものを記します．

（１） 授業

教員の担当授業時数は，化学・生物・環境系においては講義と実験・実習を合せて最大で週 30 コマ（1 コマ 50 分）程度になることがあります．これらにオフィスアワーが 1 コマ，担任を務めているときはホームルームが 1 コマ加わります．定期試験は年 4 回（前期中間，前期期末，後期中間，後期期末）あり，必要に応じて追試験も行います。また、前期末と後期末に再試験があります．学年末には成績不振学生に対する仮進級の指導などを行います．また，教員相互に行う授業観察や前後期などに行う学生による授業評価などを通して，教育方法の改善に継続的に取り組むことが求められています．

（２） 学級担任

学級担任と専攻科のコース主任をしていただくことがあります．学級担任は，一学級 40 人程度の学生への勉学や生活指導など，学生生活全般にわたるきめ細かな指導が強く求められます．例えば，高等学校と同様に，教室清掃の指導がありますし，ソーシャルメディアの使い方の指導や，体育大会や茨香祭（文化祭），研修旅行など各種行事での指導，学生への個人面談や保護者との懇談なども重要な職務となっています．

（３） 部・同好会の顧問

原則として全教員に部・同好会等の顧問に就いていただきます．日常的な指導をはじめ，高専大会（地区大会・全国大会）の運営や高体連などの各種大会やコンテストおよび練習試合の引率，合宿時の指導などがあります．引率・指導時に宿泊を伴う場合もあります．顧問に就任した部・同好会の経験者である必要はありません．

（４） 学校運営のための主事・副校長，主事補，各種委員会委員等

学校運営のために，校長の補佐として総務，教務，学生，寮務の４主事と地域連携，専攻科の 2 副校長が置かれています．各主事と副校長には補佐として主事補などが配置され，主事・副校長の指示に従って職務を遂行します．また，様々な課題を審議するために各種委員会があります．さらに，高等教育機関としての教育・研究や社会貢献を目的として，各種センター，広報室，キャリア支援室が設置され，それぞれに課せられた職務にあたっています．こうした学校運営において積極的に活躍していただきます．

（５） 研究，卒業研究・特別研究指導

高専の教員は，教育面や学校運営への参画のみならず，研究面での業績も求められます．研究に対する意欲的な姿勢と成果が学校全体の教育研究面の活性化を促し，さらには地域社会への貢献につながることが期待されています．また，卒業研究の指導や，専攻科学生を担当して特別研究を指導することもあります．

（６） 入試

本校への入学には，中学生を対象にした第１学年入学や高校生を対象にした第４学年編入学，高専や短大の卒業生を対象にした専攻科入学があります．これらの入試に作問，問題検査，採点，面接，試験監督等で関わります．

（７） 学寮の宿直

本校では，原則として女性教員を除く全教員に、年数回程度学寮の宿直が割り当てられます．約 200 名の男女寮生を指導するこの職務は，学寮運営上本校教員の重要な業務の一つです．

（８） 社会貢献

本校では，共同研究，受託研究，公開講座，出前講座など様々な形で地域連携活動を展開しています．地域社会からも

様々な形で本校に対する要望が寄せられます．地域連携活動が学生教育へ及ぼす効果に加え，地域に根ざした高専としての存在価値を高めるためにも，高専教員には積極的に地域社会に対して貢献する姿勢が要求されます．